急増する特殊詐欺　“市民の生命と財産”を守る！



劇を通して詐欺に関する啓蒙を行う劇団「風」(旭川消費者協会)に所属し、出張劇団員として活動中。詐欺師役も板についてきました！

私は、大学時代に悪徳商法や詐欺に関心を持ち、所属したゼミナールで契約法・消費者保護法（悪徳商法や詐欺、クーリングオフ、PL法など）について学び、行政書士としても活動していたため、今でも問題意識を持っているところです。

年月は経過しましたが、生活者を食いものにする犯罪行為はとどまるどころかますます悪化しており、旭川においても被害が後を絶ちません。また、ニュースになるような被害以外にも日常生活における契約トラブルは多く、私も相談をいただくことがあります。

近年ますます巧妙化されている特殊詐欺は良心や心の隙間を狙ったものが多く、高齢者を狙った「オレオレ詐欺」や「架空請求詐欺」、「還付金詐欺」、また未婚者の結婚願望につけ込んだ「ロマンス詐欺」などがあり、あらゆる手口が生み出されています。１件あたりの被害額は大きく、国内の被害総額も年々増加しており、これら詐欺は被害者の生活基盤をズタズタにするものです。

また、裏社会で流通する個人情報から狙われた市民が命までも奪われる事件も発生しており、市民の自衛には限界があるため社会不安が広がっています。背景には、SNSなどに掲載された好条件の「闇バイト」の一時的な金銭的利益に惑わされ、指示役の命令に従う中で犯罪の実行役となっている実態があります。その結果、被害者だけでなく加害者も増加する一方、背後では反社会的組織が暗躍し、これらの犯罪がそうした組織の資金源となっている、という問題があります。

「特殊詐欺・闇バイトに関する意見書」を起草し、旭川市議会各会派に働きかけ、全会一致で国会へ提出

日々発生している被害、犯罪を取り締まるのは警察であり、国の取り組みも進みつつありますが、一方で、地域から国会への働きかけが行われていない状況から、私は、旭川市議会から“市民の生命と財産を守る”ための声を上げようと意見書をまとめ、議会へ提起しました。

国の動向もあり慎重な会派もありましたが、“市民の生命と財産を守る”ためには迅速かつ包括的な対策が急務であるため、各会派と調整を重ねた結果、2024年12月の旭川市議会第４回定例会で全会一致で採択に至り、この旭川から国会へ特殊詐欺・闇バイト撲滅へ向けた意見書を提出することができました！

近所や地域のつながりは安心・安全社会の基盤

意見書提出はゴールではありません。生活者の良心や心の隙間を狙った特殊詐欺を防ぐためには、日々、詐欺に対する啓蒙と情報の共有、そしてひとりで悩まず相談できるような体制、地域の連携が不可欠です。近所や地域とのつながりといった“顔の見える付き合い”が薄れてきている昨今ですが、それらは安心・安全社会の基盤です。市民の方々の悲しい表情をなくし、生き生きと暮らしていける旭川となるよう引き続き声を上げ、今後も地域・生活者目線で活動してまいります。

2025.04
旭川市議会議員
植木だいすけ プレス
PRESS
植木だいすけ市政相談室
旭川市旭町2条8丁目25-74
TEL：070-6601-0825
E-mail：ueccho@mac.com



こんにちは！ 市議会議員の 植木だいすけ です



私のことを少し話させてください

私は27歳から36歳まで行政書士を生業としていたのですが、とある“事件”の解決に取り組んだ結果、**「手続きと人権を無視した組織ぐるみの不当・不正な処分、壮絶なパワハラ行為」**に合い“自分の誇り”だった仕事を失いました。当時の私は社会と関わることが苦痛になり、**孤独・孤立、経済的困窮の状況に陥り、長く苦しいうつ症状**との付き合いが始まりました【ページ２へ続く】





うつ病は社会全体の「見えづらい大きな課題」です
うつ病への社会的偏見を変えていくための“可視化”として、当事者として私は声を上げてまいります！

うつ病の人は心が弱いの？

うつ病の原因が「心の弱さ」「甘え」にあるという概念は完全に時代錯誤で、科学的根拠のない偏見です。しかし日本ではうつ病患者の81.4%が適切な治療を受けておらず、「心の弱さ」「甘え」という偏見が早期受診を阻んでいます。

声を上げることの重要性

自身のうつ病の経験を発信することは、「社会に希望の連鎖反応を生み出す」と言われています。それにより受診が促され、職場環境の改善が進み、偏見の解消につながります。誰かの声が勇気を与え、社会全体の認識を変えることに繋がるのです。

うつ病への正しい理解を広めることで、一人ひとりを尊重するインクルージョン(多様性を包摂する)社会、持続可能な社会へ

あらためてうつ病とは

うつ病は誰もがかかりうる心の病気ですが、適切な治療を行えば治る病気です。しかしそうであるにも関わらず、未だに誤解、偏見に溢れているために誰かに相談したり声を上げたりするには勇気が必要で、自分に原因があると責めたり、周りへ相談することに躊躇したり、目を背けて必要な治療を遠ざけたり諦めたりしています。

うつ病を「心の風邪」と言う人がいますが、これはうつ病に苦しむ方を軽視する結果になりかねず、ましてや「なまけ」でもありません。現代社会におけるうつ病は、生物的、心理的、社会的要因までおよぶ複合的な疾患として認識されており、「ストレス反応による身体的・精神的な影響や脳内の神経伝達物質の変化を伴って心身に深刻な影響を及ぼす慢性的な疾患」であるため治療や支援が必要で、放置すると悪化し、自分を傷つけることに繋がる可能性があります。

PRESS 目次

ページ２
・「議員を志すきっかけとなった “事件”と当事者だからこその想い」
・プロフィール

ページ３
・議員としての取り組み
・議会一般質問
・委員会質疑

ページ４
・「特殊詐欺・闇バイト」に関する意見書」取りまとめ と 地域のつながり

【 ページ１の続き 】

～ 沈黙の連鎖を断ち切り境遇を発信することが誰かの心を軽くする ～

議員を志すきっかけとなった“事件”と 当事者だからこその想い

旭川運輸支局の正面に、とある協会があります。旭川ナンバー地域の自動車手続きに関する書類が、日々一手に集まる仕組みが何十年も続いていましたが、協会のその手続きが行政書士法違反の疑いで新聞沙汰となり、1日に数百件も集まる手続きがストップし、市民や自動車販売店の手続き、納車が大規模に遅れる自体になりました。これは、協会を長年快く思わない行政書士が仕掛け、後には北海道行政書士会 (以後同会) も関与して及んだものでした。では、受け皿として車の登録手続きに精通した行政書士がいたのかというと、せいぜい10名足らずで、とてもその人数でこなせる量ではありませんでした。

当時、私は事件とは無関係ながらその協会内に事務所を構えており、**市民が一番の被害者**である事態を憂い、協会職員の補助を受けて自分の行政書士名での手続きを引き受けつつ、並行して協会の正常化に向けた同会からの指導に従っていたのですが、同会は再び協会を抑え込むために矛先を私へ向け始めました。私は**「一切悪くない市民に迷惑をかけるわけにはいかない」**と当時の会長に相談、抗議しましたが、会長は**「お前が市民の心配をする必要はないんだ！」**と言い切りました。

私の処分に躍起になった同会は、処分案件を調査する綱紀委員会を動かそうとするのに対し、同委員会は「事態が進行中のため調査不要」とのスタンスでしたが、「植木の無実を調査するため」との理由は拒めずに調査が開始。しかし同委員会は、植木だけでは全容がわからない、と過去に例がない同会役員への調査も徹底して行い、その上で**「植木への処分は妥当ではない」**という、私の主張を反映した正式な報告書を提出します。にも関わらず同会はその報告書を握りつぶし、何も知らない理事を先導し、理事会で処分を取り付けました。法律の国家資格の組織で、当時「街の法律家」を標榜しておきながら**「手続きと人権を無視した組織ぐるみの不当・不正処分、壮絶なパワハラ行為」**を行ったのです。

この強行な処分は、当時、会を二分する大論争になったのですが、私は自分は正しいと思いながらも自身が若かったこともあり、組織が権力を使って潰そうとすることへの恐怖心に苛まれ、長く闘う徒労感により自分を責めるようになって心身のバランスを崩し、退会することになりました。権力に負けたのです。

発症した長く苦しいうつ症状に、私は生きる価値を見いだせなくなり、“誇り”を失った惨めさに自死も試みました。一方で、何とか乗り越えたい、その姿を見せたい、自分に価値はなくても誰かの役にたつ道があるなら、と考え、なんとか自尊心を保ってきました。

議員となった今、「うつ・孤独・孤立」「人権・ハラスメント」という問題は自身の中で最大のテーマであり、悩みを抱える方とお会いした際には自身の体験もお伝えして共感してきたところです。一方で、事態の難解さ故に、不特定の方に公表してこれなかったことは、決してそうではないのに後ろめたいことかのようであり、このままでは今後益々増大するこれら社会問題に対し、当事者としていつまでたっても声を上げられない、取り組めない、そんなもどかしさが強くなりなんとか解決しなければ、とここに書いた次第です。

当事者で議員の私が声を上げることで、苦しい、悲しい、つらい、そういった状況の方の気持ちが少しでも軽くなり、前向きになって悩みを打ち明けたり社会と繋がっていけたりする、そんな社会になるよう先頭に立って取り組んでいく決意です。

PRESS

議会・委員会における議員活動

市議会 一般質問

議会では、市民の足である地域公共交通、バス路線維持の対策などを訴えてまいりました。

バス路線の縮小・廃止は、買い物、通院・通勤・通学といった日常の足が損なわれることになり、生活環境の悪化を招きます。また旭川市のバス路線は、地域と中心市街地を結ぶ路線がほとんどであり、アクセスの悪化は中心部の衰退を招き、じわじわと旭川市の経済やまちづくりの活力をも削ぐことにつながります。

当然、市も取り組んではいるのですが、「需要と供給が前提の地域公共交通・バス路線」という括りのままでは間接的な支援が多く、目に見えた成果にはなかなか繋がらない状況です。このまま市が明確なビジョンを示していかなければもはや維持できない状況に来ているのは他都市を見ても明らかであるため、バス運転手の待遇改善に直結するバス会社への支援による運転手不足解消の必要性をはじめ、先進公共交通政策で他都市で成果をあげている専門家を招き、市民が交通政策に対するまなびを得て地域コミュニティを維持する取り組みにつながるような講演会や勉強会を開くなど、先手先手となる一層のリーダーシップを発揮するよう要望しました。

他に、旭川の冬の生活を守る地域除排雪における地域住民の声の反映や除排雪DX、長期的視点での中心市街地の活性化への取り組みや社会実験“まちにち計画”への要望、ユネスコデザイン創造都市として市民レベルでの身近な視点の必要性、旭川市が推進する自治体DXとノーコード推進都市宣言の意義、フードロス・フードドライブに取り組む市民団体への継続的支援などを要望してまいりました。

植木だいすけ 公式フェイスブック

市議会での一般質問や所属する委員会での質疑は、自分でもまだまだだな、と思うところも多いですが、１期目ながらだいぶ慣れてきたところです。今後は、うつ病に苦しむ方々や生活困窮者への支援、人口減少社会を前提にした地域コミュニティや公共交通のあり方などに取り組んでいきたいと考えており、他の活動も含めて引き続きSNS等で発信してまいります。

委員会質疑

私の所属する総務常任委員会所管の委員会質疑においては、女性の生活環境に応じた柔軟な就業支援（デジタル人材・創業）、就職氷河期に社会に出て非正規雇用のままの男性に国の支援が届かない状況、その状況における経済的困窮による孤独・孤立者の相談窓口、物価高騰などにより単身高齢者や生活困窮者からのニーズが高まっている市営住宅の状況と将来にわたる運営体制の確保、コロナ後の飲食業等人材が不足する業界への支援、社会問題化するカスタマーハラスメントへの対応、旭川を知り郷土愛をはぐくむデジタル市史や地図システムの市民活用、全国初の“自治体デザインシステム”活用や統一名刺によるブランディングと職員費用負担の改善、ICTパークのさらなる活用とイベントホールとして市民が利用しやすいの料金の導入、災害時のビジネス継続性（BPO）、旭川市立大学新学部のデザインカリキュラム採用、黄色線区となっているJR石北線、宗谷線、富良野線の路線維持などについて質疑し、各担当部長や副市長に要望を重ねてまいりました。より実効性のある政策の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

プロフィール





大学時代はユニセフ活動ボランティアサークルで部長として活動



見る・遊ぶ

旭川・常磐公園で「さよならタコさん」　タコの遊具とのお別れイベント

惜しまれつつも9月上旬に取り壊しが決まっている常磐公園（旭川市常磐公園）内のタコの遊具に、展示とパフォーマンスで感謝を伝えるイベント「さよならタコさん」が8月31日、同園遊園地で開催される。

幼少期に毎日遊んだ「たこの滑り台」(常磐公園)のお別れイベントを企画



JAL不当解雇問題の全国キャラバンin旭川に参加

植木だいすけ　生年月：1971年5月　あだ名：うえっちょ
議会：旭川市議会（１期目）　政党：立憲民主党　所属会派：旭川市民連合

【関心のある分野】つながり (孤独・孤立) とメンタルヘルス (うつ) 、中心市街地と地域の活性化 (人口減少、公共交通) 、悪徳商法・詐欺、人権・男女平等・ハラスメント　**【得意分野】**IT・デザイン全般

【学歴】明照幼稚園→新町小学校→忠和小学校→神居中学校→旭川北高等学校→札幌大学 法学部
(悪徳商法・詐欺・消費者保護（クーリングオフ・PL法など）に関するゼミナールで学びました)

【職歴】(株)Too (デザイン・印刷関連企業へのMacサポート)、(株)旭川冨貴堂 (本店→MEGA立ち上げリーダー)、植木大輔行政書士事務所 (民事、車輌、法人)、衆議院議員ささき隆博事務所 (公設秘書)、Apple Japan (在宅勤務でApple製品のカスタマーサポート)、(株)ネスティコーポレーション (旧植木商事)

【他の活動】・BOOKMARK CAFE 運営 (５条通７丁目 フードテラス１階)
・“まちのハッピーニュース” ローカルメディア「旭川経済新聞」運営 (みんなの経済新聞ネットワーク所属)